令和４年度　教科専門試験　高等学校・特別支援学校（地理）解答用紙　**【解答例】**

受験校種	高・特	教科科目	地理						得点	

１（８０点）

問１	（１）	c	（２）	ウ	（３）	イ	（４点×３）
	（４）	オ	（４点）				
	（５）	中央に山地（高地）があり、（南東）貿易風の風上にあたる東岸では降水量が多いが、風下の西岸では乾燥する。					（６点）
	（６）	ア	（４点）				
	（７）	サヘルでは、人口の増加に伴い、過放牧や薪炭材の過伐採などにより砂漠化が進行している。					（８点）
問２	（１）	ウ	（２）	イ			（４点×２）
	（３）①Ａ	カカオ豆	（３）①Ｂ	キャッサバ	（３）②	カ	（４点×３）
	（４）	オ	（５）	エ	（４点×２）		
問３	（１）	ヨーロッパ諸国が経緯度などを基準に植民地分割した際の境界が、独立時にも国境として残されたため。					（６点）
	（２）	アパルトヘイト	（３）	ウ	（４）	ア	（４点×３）

令和４年度　教科専門試験　高等学校（地理）解答用紙　**【解答例】**

受験校種	高	教科科目	地理						得点	

２（３０点）

<table>
<tr><td>（１）</td><td colspan="3">　イランはイスラム教シーア派が多数を占める国である。イスラム教国の多くでは、女性の日常生活に厳しい戒律がある。イランではイスラム教の教義に基づく性別役割規範の存在があり、特にイラン革命後は女性の地位や役割をおもに家庭内に見出すように母性を強調する方針を採用しており、そのため女性の社会進出が進まず、女性全体の就労率が低迷する。
　スウェーデンでは社会保障制度が充実しており、男女の労働時間の短縮や有給休暇などの育児休業制度が整備され、ワークライフバランスが実現している。また男性が育児にかかわる時間が長いことから、女性の就業率が高くなっている。
　日本は男性の育児休業取得率が低いことこともあり、必然的に女性が育児の中心となる。したがって出産後に一度離職し、育児が一段落した中年期に再就職する傾向が強くなることから、M字型の労働曲線となる。</td><td>（１０点）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">（２）</td><td rowspan="2">ドイツ</td><td>記号</td><td>エ</td><td>（２点）</td></tr>
<tr><td>理由</td><td>　ドイツでは第二次世界大戦直後の復興期に労働力不足となり、これを解消するために諸外国との間で二国間協定を締結し外国人労働者の受け入れを始めた。協定は、1955年のイタリアから始まり、スペイン、ギリシャ、トルコ等と1968年までに順次締結されていった。これらの国からの労働者は「ガストアルバイター」と呼ばれ、短期間雇用が前提であったが、多くがドイツに残留した。また1990年代に入ると東欧社会主義政権の崩壊し、21世紀になると東欧旧社会主義国であるポーランドやルーマニア等がEUに加盟したことから、これらの国々からの人口流入がみられた。ポーランド、トルコ、イタリア、ギリシャ、クロアチアが上位に位置することから判断できる。</td><td>（８点）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">サウジアラビア</td><td>記号</td><td>ア</td><td>（２点）</td></tr>
<tr><td>理由</td><td>　サウジアラビアはイスラム教を国教とする産油国で、国土がB気候に属するという自然環境から、慢性的な労働力不足に陥っている。サウジアラビアへの国際移住者が多い国として示されている国々は、イスラム教徒が多く、国内の賃金格差が大きい国であり、比較的賃金水準の良いサウジアラビア等西アジア産油国で就労する労働者が多くなる。従って、国内の賃金格差が大きく、約14億の人口の14%がイスラム教徒であるインドや、国教をイスラム教として定め、西アジア産油国との距離が比較的近いインドネシア・バングラディシュ・パキスタンが上位を占めることから判断できる。</td><td>（８点）</td></tr>
</table>

令和４年度　教科専門試験　高等学校（地理）解答用紙　**【解答例】**

受験校種	高	教科科目	地理						得点	

３（３０点）

（1）	日本列島の東のオホーツク海付近に低気圧、また日本列島の西のユーラシア大陸東付近に高気圧が位置することから、いわゆる「西高東低」の気圧配置で、冬季にみられる天気図である。強い勢力の低気圧と高気圧の間にある等圧線は混み合っており、また太平洋沖には寒冷前線がみられ、大陸からの寒冷な季節風が強く日本海側を中心に吹き付け、暴風雪・地吹雪・大雪になることが予想される。 暴風雪や地吹雪による交通障害を防ぐために防雪柵を設けたり、なだれ防止用のスノーフェンスやスノーシェルターを設置したりする。都市部では路面に地下水を散布する消雪パイプなどを埋設し、融雪を行う。
（2）	写真１及び図２から、山際の住宅地に土砂災害が集中していることがわかる。図３から、都市部の人口増加によって山麓に続く扇状地を中心に宅地開発が山側に進んでいったと考えられる。扇状地は谷を流れる沢や河川を流れ下る砂礫の堆積によって形成されるものであり、そこに宅地を造成しているため。

（１５点）

（１５点）

令和４年度　教科専門試験　高等学校（地理）解答用紙　**【解答例】**

受験校種	高	教科科目	地理						得点	

４（４０点）

（１）	2015年9月の国連総会において「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、先進国と途上国がともに取り組むべき国際社会全体の普遍的な目標（ゴール）を定めたもの。エネルギーや都市問題、気候変動、地球環境など様々な課題（ターゲット）が示され、「誰一人取り残さない」をスローガンとして、全世界が取り組む目標である。
（２）	都市内の土地利用の郊外への無秩序な拡大であるスプロール現象を抑制し、公共交通機関整備等を活用して中心部の再活性化を促す、生活環境が集積・集約された効率的な構造の都市。
（３）	インドにおいて、1970年代後半からの乳牛の品種改良の促進と、酪農協同組合の設立により、生乳の生産量や消費量が急増した現象。牛を神聖な動物とみるヒンドゥー教徒の多いインド国民は、牛乳の消費機会が希薄で、タンパク質の摂取量が少なかったが、使役用水牛の生乳から牛乳を生産することで牛乳消費が拡大し、インド国民の健康増進につながった。
（４）	「アメリカ合衆国・メキシコ・カナダ協定（United States-Mexico-Canada Agreement）」の略称。母体は1994年にアメリカ合衆国・カナダ・メキシコとの間で締結した北米自由貿易協定（NAFTA）。アメリカ合衆国に不利に働く協定として、ドナルド・トランプ大統領が猛烈に批判し、改正を求めたことから、2020年7月にNAFTAに代わって発効した協定である。

（１）（１０点）　（２）（１０点）　（３）（１０点）　（４）（１０点）

令和４年度　教科専門試験　高等学校・特別支援学校（地理）解答用紙　**【解答例】**

受験校種	高・特	教科科目	地理						得点	

５（２０点）

【単元（題材）の主題】

　インドが飛躍的な経済成長を遂げている理由は何か。

【授業の展開例】

〇　本時のねらい

（１）インドの人々がＩＣＴ業界での活躍の要因について理解する。

（２）複数の地理情報が提示された資料の中から必要なものを取捨選択し、そこから読み取れる情報をまとめる作業を通し、思考力・判断力・表現力を養う。

〇　指導上の留意点

（１）生徒の主体的・対話的な学びを促すために、グループでの活動を取り入れる。

（２）複数の地図や統計資料、写真から読み取れる情報を結び付け、多面的・多角的に考察できるように配慮する。

〇　具体的な展開例

（１）導入

　ア　教室のスクリーンに、アメリカの代表的ＩＴ企業のロゴや本社ビル写真などを複数提示し、経営規模や世界シェアなどについて紹介する。

　イ　それらの企業に勤めるインド出身の技術者の割合を示し、「なぜインドの人々はＩＣＴ業界で活躍しているのか」という本時の主題を提示する。

（２）展開

　ア　近隣の生徒と班を作り、机を合わせる。

　イ　各班にインドに関する統計資料や写真、世界地図などの資料を複数配付する。

　　※　資料例：旧宗主国を示した地図、各国の時差を示した地図、カースト制と職業に関する資料、主な国の一人当たりＧＮＩなど

　ウ　各班では、配付資料から必要な情報を取捨選択し、仮説を立てて推理し、模造紙に記入して提示（学習環境によっては端末入力からスクリーン表示）し、簡潔に発表する。

　エ　教員による説明で、不足した情報などを補足。

（３）まとめ

　ア　インドの経済成長の理由について分かったこと、疑問に感じたことなどをまとめる。

　イ　ペアワークで隣の生徒と意見交換を行う。